

●小山乃里子の
ノコちやん

華麗なる食べある記

△21▽ レストラン グーニー

△22▽ 山菜料理 六 段

□グーニー

★本当の食べる楽しみを満足させるレストラン

「ものすごくおいしいピザの店、おしえたげるわ。

だけど、ノコにいうたらすぐ知れ渡るしなあ。あんまり

人に教えとない店やねん」ひとをいかにもおしゃべり女の典型みたいにいうてからに、もつたいぶつて連れていたのが、グーニーだった。今の店の、前の店、でもされたのが、グーニーだった。今の店の、前の店、でもそこも今でもやつてるから、つまり、元の店、ややこしい。その時食べたアサリのスープと、大きな銀のお盆にのつかったピザの味が、あまりにもおいしかったために、私はそれ以後、人にゆつたらあかんよという約束をやぶつては、ちよいちよい友達とピザを食べにいったものだった。

私はかなり単純な女だから、ここはこれがおいしいと思いつつ、いつ行つてもメニューなんて見やしない。アサリのスープに、ミックスサラダ、カネロニ、ピザ。それだけ頼むとあとは黙々と食べるのみ。

こここのサラダは、本当においしい。なんて書くとマスターがきっとカウンターの奥からどなるだろう。

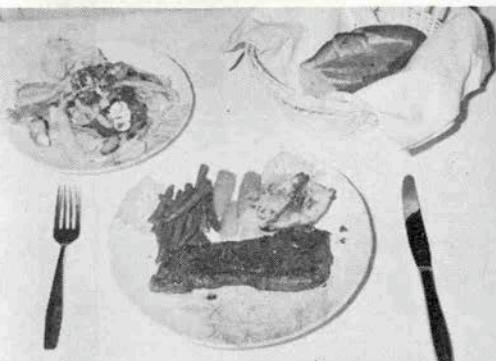
「うちはまずいもんなんて何一つおいてないでえ」でも、冷凍じやないエビやマッシュルーム、カニの身のふんだんに入ったサラダは、ちょっと他の店にはない味わいである。

そうやつて何度も行くうちに、ある日、「小山さん、一回位、うちの看板の料理食べえなあ」とマスター。「ええっ、ここ、イタリア料理の店ちやうのん!」と私、「ヨーロッパ料理でつせ。肉が特においしいんや、メニューに、ピザ書いてまへんやろ」「メニューなんて長いこと見てへんもん。そら、えらい悪いことで、ほんなら食べるわ、おすすめをちようだい」なんてことで、今日食べたのが、次に紹介するものである。

まず、生ハムとメロン、この生ハムは、当店特製、一週間位いぶすのだそうだが、適当な塩けがおいしい。クリームマッシュルームスープ・カツ入りをもらう。お皿入りもあるが、頼んだもの全部をおいしく食べられるようなど量をかげんしてくれる。この店の特長なのだ



グーニー



▲サーロインステーキとグーニー風ミックスサラダ

「美食の喜びを味わって欲しいですね」とマスターの内山成昭さん



が、ついたくさん注文すると、まだ食べられるようなら、あとで注文して下さいと言われる。そしてたいてい途中で言われたあたりで、お腹は満腹なので大助かり。ステーキは塩とこしょうだけの味つけで、炭焼きにしたもの。口の中に肉の味が広がる。さすが自慢するだけのことはあるなあとマスターを見れば、ニヤリと口の端で笑った。カウンターのむこうにはずい分たくんのワインやウイスキーの数々。そういうや、ここで飲んだこともなかつたつけ。デザートの梨のシロップ煮を食べながら、今日は新しいグーニーの一面をのぞいたようで、とうのはまったく私だけの感想で、ここは前からこの味で売っていたんだ。私がおくれていただけなのだつた。

仔牛料理／1800円／ステーキ／2800円／グーニー風ミックスサラダ／1200円

生田区北長狭通3番321-13540 事務所番222-1036
正午～午後10時 第2・3月曜日休

□六段

★季節の香り、自然の幸が豊かに

秋の一夜。およそ風流とは関係のなさそうな趣きの、D.J.仲間四、五人つどいて、何故か秋の七草のハナシになつた。誰ひとり、正確に言えた者はない。

「はぎおばな、ききょうなでしこ女郎花、すずなすずしろ、ほとけのざ」。何度も考へても、秋と春のごつちやまぜの八草になつてしまふ。ああ、こんなことでは、明日の日本の放送界はどうなるのだろう。ヨヨーッ。

その時ふと、六段の山田さんの顔が浮んだ。

「神戸のねえ、三宮の山側、歩いて三分位かなあ、山菜料理の店があんねん。そち、珍らしいもの色々あるよ。へえー、こんなん食べられますのん、つて手あいの山菜が、おひたしになつたり、あえものになつて、次から次へと出て来るの。あそこなら秋の七草も料理にしかねないなあ、一べん行ってごらん。」

などと、べらべら喋つたりしたものだつた。

六段



▲猪豚のアバラとふんだんの野山の幸、土炉鍋

「六甲山は山菜の宝庫です」とご主人の山田幸男さん

久し振りに六段をのぞいてみる。この三琴ビルの四階に引っこしてもう二年である。ちょうど、中村安沙さんの書作展も開催中で、さりげなくいけられた秋の野草にびつたりと合った雰囲気をかもし出している。店の中でこんな風に色々の展示会を開くのもユニークである。秋からまた味わえる土炉鍋をつつく前に、まずはます酒を一杯。これが丹波の小鼓の“なまざけ”。どなた様に限らず一杯かぎりとくぎをさされた。ますを置いてふと見ると、ぐいのみのような、もう少し大きな、趣きのある器に色々のものがちよこっと入って並べてあつた。菊の花のおひたし、菊の花びらは東北地方のが良いそうだ。桜めじ、別名布引もたしともいう。草木という木の葉、黒かわのくるみあえ。

そこへまた直径一センチ位のかわいいおちよこに入つたまたたびのお酒も運ばれてきた。これを飲むと、また旅に出る気力がわいてくるので、又旅というのだそうだ。さて、目の前のお鍋がぐつぐついい出してさつきから味噌のかおりがお腹をくちくちく刺激する。ふたを取ると、味噌だしの中にくしにさしたコンニャクといも、いのぶたのあばらのぶつ切り、とうふに大根。このいのぶたがおいしかった。やわらかいなんてもんじやない。とろけそなのだ。横にある山盛の山菜類。せり、きくな、千本しめじ、椎たけ、わらび、白菜などをそのお鍋に放り込んで、ふうふういながら食べた。味噌のしつこさを山菜が消している。

今でも週に一度は山歩きに出かけ、食べられる山菜はほとんど知っているという山田さん。最後に秋の七草を聞いてみた。“萩、尾花、葛、なでしこに女郎花、また藤ばかま、朝顔の花”。さすが。

お屋の定食／800円 山菜定食／2000円 甘子塩焼／700円
陶板焼／600円 せり、水菜（みず）など一品／300円
葺合区琴緒町5 三琴ビル4F
午前11時半～午後10時 水曜休
電231・0406

中国の子どもたち

橋本 明△社団法人「家庭養護促進協会」事務局長▽

★九月に二週間中国を訪れました。幼稚園、小学校、中学校、養老院、子ども病院、人民公社などを参観し、いろいろ考えさせられました。今月から三回にわたり、福祉的な視点から中国をルポで紹介します。

中国への旅はまず子どもたちとの出会いから始まる。

かわいらしい衣裳をまとった子どもたちの熱烈な歓迎は中国を訪れた人々を感動させずにはおれない。

私は天津市で幼稚園と中学校、旅大市で幼稚園と小学校を訪問し、多くの子どもたちの姿に触れることができた。幼稚園は日本の保育所に相当し、両親が働いている三才以上の子どもを預かるのだが、毎日通園する日託とする全託制ゼントクセイがある。中国では至るところに託児所があり、母親の56日間の産後の休暇が終ると、子どもが三才

になるまでの間、託児所で預かり、三才から小学校へ入るまで幼稚園で預かってくれるので、両親は安心して外へ働きに出ることができ、教育の目標は



町でみかけた父と子
明してく
先生が説
られた。参
観の時、幼稚園の子どもたちが四つの現代化歌や踊り、絵画で表現してみせてくれた。「三才子の魂百まで」というが、三才にもなると中国がめざしている国家建設目標を具体的に教育されるらしい。

人口七〇〇万の天津市には一、〇〇〇か所の中学校がある。そうだが、その一つ、平山道中学校を訪れる機会があつた。この中学校はモデル校として指定されており、昨年も神戸市からの訪問団が参観に訪れている。その時の写真が学校の入口にたくさん展示されていた。校長先生は「労働者に奉仕し、社会主義建設の自覚をもたせ



中国の子どもたちといっしょに（左が筆者）

一定期間農村へいって労働をし、生徒に人民を愛し、労働を愛することを具体的に教えるという。また各学校には付設の工場があり、ラジオの部品を作っているところを案内していただいた。どの学校へ行ってどのクラスをのぞいても、眼鏡をかけた子どもを一度も見かけなかつたのは不思議だつた。後で先生にたずねると、どこでも眼の体操をしており、座席の位置も時々変えるという。それに椅子に座つている子どもたちの姿勢がみなとても

いい。中学校の参観の時一、六〇〇人の生徒たちといつしょにラジオ体操に参加すると、眼や耳の体操も教えてくれた。

学校の参観とは別に、ホテルを出て一人で町を歩きまわるとどこへ行っても多勢の子どもたちが集まつてきた。あまり豊かな生活をしているとは思えないが、子どもたちの表情は明るく、みな旺盛な好気心に満ちていた。「大きくなつたらどんな人間になりたいの?」とたずねると「労働者」「兵隊」という答えが多かつた。天津では三年前の地震で壊れた小さな狭いレンガの家に住んでいる家族も多く、路地に入ると子どもたちが椅子を机がわりにして道端に座りこんで勉強している姿がよく目についた。

子どもたちにたずねると、学校は二部制の授業になつており、午前八時からお昼までのクラスと、午後二時から六時までのクラスに分かれており、授業のない時間は家で自習することになつてているという。椅子の上にノートをおいて道端で一生懸命に勉強をしている子どもたちを見ていると、個室を与えられ、勉強を強いられる日本の子どもたちとどちらが幸せなのかなあ、といふ考えこまされた。

どの学校を訪れても、かならず子どもたちの歌や踊りの「出し物」を見せてくれるが、これがみなとでも上手で楽しい。中国の子どもたちは託児所から始まつて、小さい頃から集団の中で育てられていくようだが、それぞれの子どもたちの個性を伸ばすことにもかなりの努力がなされているようであつた。

中国に滞在中、心身に障害をもつた子どもたちの教育に接することができなかつたのは残念であつたが、日本のような心身障害児の養護学校はなく(盲、ろうあ児の学校はある)、軽い障害児は普通の学校で学んでいるとの先生のお話であった。

右上 中学校の授業風景 右下 旅大市の幼稚園で子どもたちが歌と踊りで大歓迎 左 道端で勉強をする小学生



しやれたあなたの店を持ちませんか？

阪国
神鉄
元町駅から徒歩4分です



テナント募集

ブティック・ケーキハウス
喫茶・レストラン
日本料理
美容室・医院
事務所に
最適

山の手 シャルマン

附近案内図



一階平面図



◆完成予想図

建築概要

所在地 / 神戸市生田区中山手通4丁目27-1
交通 / 国鉄・阪神元町駅より徒歩4分
敷地面積 / 164.37m²
構造 / 鋼筋コンクリート造、地上5階建
建築面積 / 136.27m²
延床面積 / 664.139m²
竣工予定 / 54年3月
賃主 / 株式会社シャルマン
設計監理 / 金丸建築設計室・倉本建築設計事務所
設備 / レバーター1基、自動火災報知機、
TV・電話配管
電気 / 開西電力(各戸別メーター設置)
ガス / 大阪ガス(各戸別メーター設置)
水道 / 神戸市営(各戸別メーター設置)
広告有効期間 / 54年11月末日

募集要項

	専有面積	敷 金	賃 料
1F	107.54m ²	3,000万円	30万円
2F	121.15m ²	2,000万円	25万円
3F	121.23m ²	1,500万円	24万円
4F	120.49m ²		契 約 濟
5F	90.24m ²		契 約 濟

共益費 / 3.3m² 当り2,000円(予定)

各フロアー共、間仕切り、お
支払い方法等相談致します

事業主(貸主)

(株)シャルマン
神戸市生田区下山手通2-36

☎078-391-5005(代)

★神戸の集いから

★版画家・川西英氏の全貌を一堂に展覧

連作「神戸百景」などの作品で神戸っ子に親しまれている版画家の故川西英さんの遺作展「みんなと神戸のノスタルジア」版画家川西英



作品を参観する樋枝さんら

会場入口で、樋枝さんら関係者の手によってオープニングセレモニーが行われ、その後、一般の参観者が会場を訪れ、川西芸術を堪能した。

★突々和夫個展が開かれる

味わい深い版画と水彩画が並んだのはギャラリー神戸時代。9月16日から30日

久々の個展を開かれた突々和夫さんは現在長田高校で教鞭をとる傍ら適格で風情のある版画作家として人気がある。「京都美大時代から優秀な画家であった」とは師の井上馨氏。今回は版画の他、珍しく奈良などのスケッチも展示され、実力派作家突々和夫の画量の深さが再確認された。人望の

これは、同氏の遺作千余点と収蔵品などが、このほど、樋枝未亡人から神戸市に寄贈されたのを記念して開かれたもので、代表作三百余点が展覧され、同氏の芸術の全貌を知ることができることで、開催期間的な催しだった。

初日の午前10時からは、



突々和夫氏を囲んで

◆小泉パーティご案内

小泉パーティは

結婚を希望する男女にお見合いや愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

◇結婚シーズンを迎えて>

ご婚礼のお買物のご相談は

神戸マリッジへ(無料)

楽しいご婚礼のお買物をご予算に応じてプランニングし、神戸の一流の専門店をご紹介いたします。

《協賛店》

家具の江戸屋・宝石のタジマ・ふとんのつゆき
紳士服のニッケショールーム・和装のみよしや
旅行の日本旅行・他各種の専門店

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は
事務局 TEL 650 生田区北野町3丁目10-2
淡島マンション105号 電話 078-242-0333 小泉正巳
お問合せ、ご連絡は午前中又は夜間に。

厚い突々さんを囲んで開かれた17日のオープニングパーティには井上先生の他、赤木蘇夫二、伊藤誠、東浦

好洋、菊川晋久、中西和夫、初田寿、花畠和夫さんら多数がつめかけ和やかな時がもたれた。

勢がつめかけ和やかな時がもたれた。

は接していたが、意外や、元永定正展は神戸で初めてなのだ。9月18日から27日まで元町画廊(佐藤廉)、60周年企画のトップを飾つて開かれた。乾由明、赤根和生、河野通紀、西村功、中西勝、山口牧生、松本宏、吉田稔郎、河口竜夫さんら約100名近い人々がオープニングに集まつた。ファンタスティックなコスモス・ユーモアの世界に浸りながら飲むウイスキーは、実に美味しい

「ハハフフ」の絵の前に立ち止った時、(アッハハハツ)と腹の底からおかしく樂しく笑つてしまつた。こんなにアッカラカンと抜けたるなんて、なんとも嬉しい。

神戸の街への出没度はかなり頻繁で、グループ展で



談笑する元永氏と佐藤氏



休みのための椅子

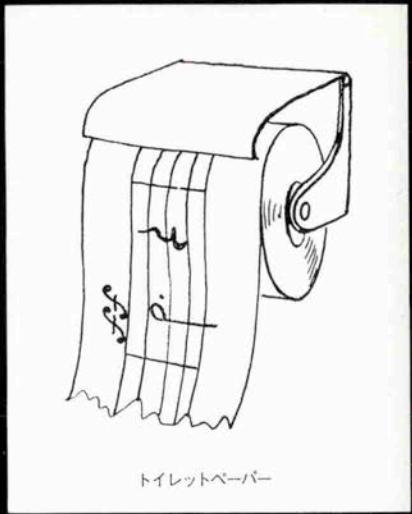
フジン学
講座

LESSON・11

すてきな
トータルファッショն
—音楽愛好家のための

講 師

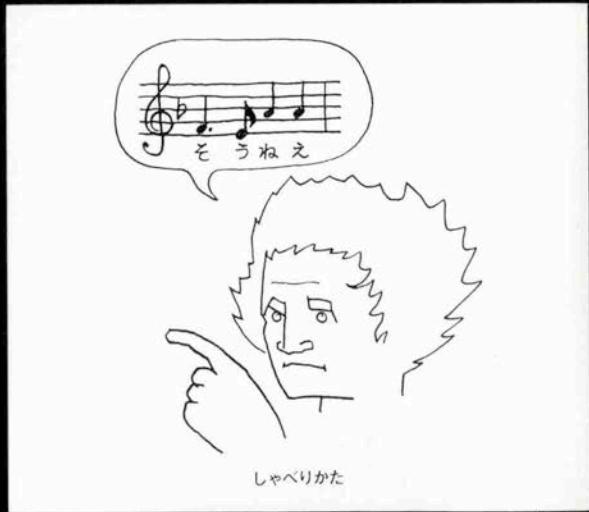
★ 岡田 淳



トイレットペーパー



長い曲を聴くときのための煙草



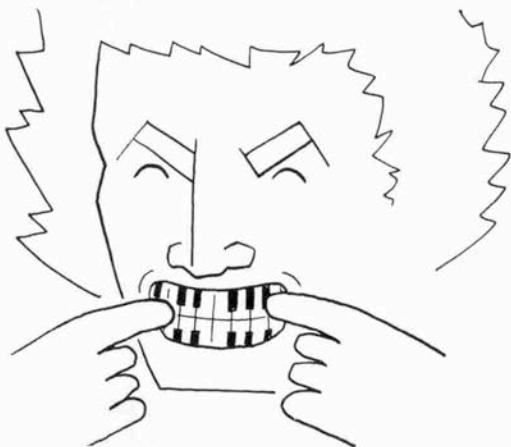
しゃべりかた



ペット その2



ペット その1



いれば



おへそのいれずみ

神戸のブティックとオーナー／クロス

トアロード靴からバリーまで

清水 俊夫さん（クロス社長）



清水さん（トアロード「クロス」にて）

紳士靴店はもつと古くからあつたし、東京にもあつたんですが、パンプスのハイヒールはトアロードまで来ないとなかった。だから東京からもお客様は多勢いらしてましたよ。『靴は神戸』といわれたのはその頃からです」

——靴のデザインなんかは、どうしておられたのですか
清水「フランスやイタリアのカタログがありまして、それで選んでもらっていた。といつてもパンプスの形だからそんなに種類はないでしょ、ヒールの高さと先の丸味が違うだけ。それで寸法測つて職人さんに渡すんです。坐つてもらって測つて、立つてもらって測つて。立つて測ると体重によつて形が違つてくるのね笑」職人さんは甲皮を張る人と底付ける人と別で、全部手で縫うんですよ。一日に一足しかできなかつた。職人さんというのは氣難しくつてね、急ぎだから一日二足作つてくれといつても絶対してくれへんの」

——どんな方がお客様までしたか。

清水「上流階級のお嬢さんや芸能人、それから外人や

ね。高峰三枝子、山根寿子なんて女優さんたちもお得意さんでしたよ。僕はね、山根寿子のファンでね、サインしてもらった（笑）」

今でもね、時々クロスのパンプス持つてるという人が来られるし、お年を召した方で娘の時買つたヨつて入つてくる人がいる。二代目、三代目のお客さんとかね。だつて僕に孫ができるんだからね（笑）」

——クロスは婦人靴のオーダーの草分け的存在なわけですが、開店されたのはいつですか。
清水「昭和十二年です。その頃はトアロード靴といつて同じ場所で今日迄続いているクロスの清水俊夫社長に、靴の話など伺つた。
——クロスは婦人靴のオーダーの草分け的存在なわけですが、開店されたのはいつですか。
清水「昭和十二年です。その頃はトアロード靴といつて婦人靴専門店がトアロードに七軒程あつたんです。勿論どこもオーダーばかりです。」



上／古い家具やスイス、南仏の家具が多い。古い物では1700年代のがある。

下／靴は Bally。年に2度、200足ずつ仕入れる。注文をすれば取り寄せてもらえる。

——今は靴はスイスのパリ一だけ、オーダーはしていないですね。

清水「戦後靴作りが全部機械できるようになつてからやめたんです。パリ一を始めたのは十五年前ですが、神戸で一番最初ですし、一軒だけだった。オーダーで靴作ろうとしたらすごくかかるでしょ、パリ一は今でも裁断はメス使ってね、手仕事でしているんですよ。昔のクロスの靴に代わるのはパリ一だつて思いましてね、だから今置いてるのはパリ一だけ」

——アクセサリー、服、家具も置いてらっしやる。

清水「終戦後なんですが、そのきっかけが面白いんです。戦争中、衣料が切符制になつて絹のストッキングが不足してましたでしょ。ちょっと田舎の方に行くと、切符なしでいくらでも買えた。お客様に頼まれてね、奈良の方まで買いに行つてあげたんです。」

——お客様の要望で始められたのですね。

清水「そうそう、お客様に教えられたんですよ。家具はパリ一を入れてからですが、パリ一は年に四百足しか入らなくて、パリ一だけじや店が理まらない。これは何かディスプレイしないといかんということと家具を入れたんです(笑)。昔から古い家具が好きだったんですよ。だから売れたらいいけど売れなくくともかまわないって思つてた。そしたらね、どんどん売れちゃつた(笑)」

——好きだから始めたというのは、とても神戸らしいですね。

清水「靴も好きで始めましたからね。服もそうだし家具もそう。ただここはトアロードですから、トアロードに相応しい物を搜さないといけないと思うんですよ。

うちはパリ一の靴、雑貨、家具と輸入品を扱つてゐるわけですが、できるだけ直輸入して安く提供したいと考えてるんです。勿論トアロードに向くいい物でなくてはならないでしよう。つまりそれがコウベファッショントアロードファッショントアロードだと思ひます」



絵と文

おかだみほこ

いうミニショップを作りました。九日間遊びました。みんななんて読むのかわからんいらしくって“おんなのこじるしほんぼ”とカナをつけました。今まで二人展はやつて来ただけど、こんな企画は初めてじゃない。イラスト額★手作りのクリスマスカード★シール★カレンダー★手染めの袋etc……可愛いお店になりました。一日目に来て下さった小さなお客様がね、二日目、一番乗りで“おねえさんおはよう”って……。昨日買ったお人形、蛍光灯にぶらさげてんのとしつても可愛いの、それで：“ねもらつて!!”ってみどり色の小さなヘビさんのいぬぐるみもらいました。思わずキヤッとうれしくなりました。そんな日は売れなくとも、とてもハイビです。小さなお店は、小さなお客様と、すこしへにかんだ、私くらい(?)なお客様でいっぱいでした。小さなお客様はサイン帳にいかに忘れられないかを目的に、それぞいろーんな色のマジックでサイン(?)して行きます。“覚えていてね私のこと”と言われて“うん”でも本当は仲々みんなの事覚えられないのがめんなさい。もう一度会えたらきっと覚えられる。“サインして”って学生手帳出すお客様もいたのよ。なんかへんなくすぐったい気分だったわ。くりんちゃんやりんごちゃんが、お客様と私た方が話しかけてこられます。うれしい心や、優しい気持ちになって帰って行かれます。



くりんちゃんお元気ですか、窓のスクリーンにはとんぼの群! いしつばいです。山科にこしてきました。もう7ヶ月がすぎました。

これにこぎつけるまでの必死の緊張感!! 終った後の喜び!!あまりに対照的でうれしいわ。

私いつだって一生懸命燃てる前向きの自分が好きなのね。やっぱりやんないきや、やるしかないって思うもの。私にはこれしかないわ。でもいつもいつもそうじやないのよ。山科の風?に吹かれていると、とてもおちついてきます。私の絵は日々のほんの小さな出来事から生まれてくる事もしばしばです。昔は肩はつて生きてた頃もあったわ。でも素直に自然に生きていくのが似合つてるとこのごろ思うのです。

お店を終えて人々に帰つて来た山科は妙に空が高く、青くなっていました。電球の光もとつてもあつた

くりんちゃんの秋ですよ!!とげとげのバツグに宝物いっぱいつめこんで遊びに来て下さいね。

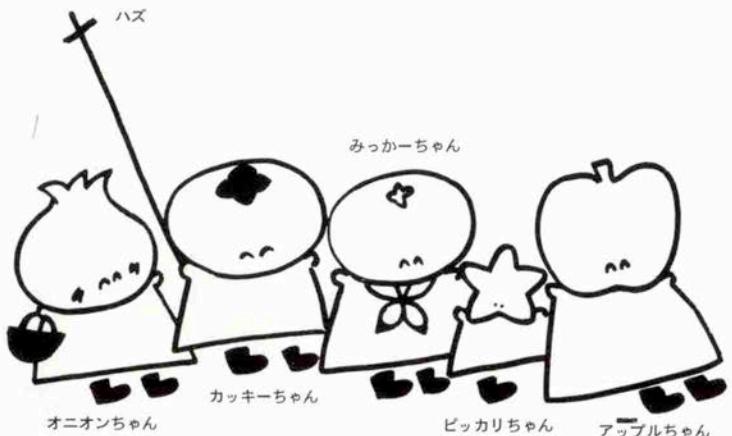
山科の夕焼けはきれいよ。

■ おかげだみほさんはヤングミセスではありますけれども、少女っぽさの残った夢見る夢子さんでもあります。その人となりびったりのメルヘンあふれる世界をもつた人です。

かくなつたような気がします。毎日、"秋よ、ワア~秋だ、ねえ秋よ"なんてはしゃぐものだから、チトうつとうしがれたりして;"秋なんてほつてもくるさ"とうちのダンナ様……。

近所に鉛なりの柿をみつけると、小さい時田舎で、柿の木に登つてはずで落としていたのを想い出します。そしたら妹がザルもつて捨うの。サル・カニ合戦みたい! デパートにきれいな柿がチヨンとお行儀よく並んでたりすると、何かあれば柿じやないみたいな変なカンジで……。そうそう、ブドウ色のスカーフが欲しくって何で作ったと思う? ないしょないしょ。すこししまだらになつたけれど……。もすこしたら山科の疏水べりに落ちるドングリさんで、首飾りも作ります。イチヨウの葉っぱには、何枚も何枚も"お元気ですか"って書いてバラまきます。それからね、秋の夜長つれづれに、大好きな人に、午前0時、"お誕生日おめでとう!!"って電話するのです。一番のりのプレゼントになります。でもこれは迷惑になつたりするから:気をつけて!

でもおうちの中はまだ夏なのです。トイレの鏡に夏雲が浮きっぱなしだし、ソフトクリームの絵だつてかかりっぱなし……。早くしなきや、急がなきや、と思いつつ気持がいつも先走ります。



● ジョイントは……：

ジーニングライフストア・ショピント
■ おかげだみほさんはヤングミセスではありますけれども、少女っぽさの残った夢見る夢子さんでもあります。その人となりびったりのメルヘンあふれる世界をもつた人です。

シーニングライフ・ストアー・ショピント
joint
JEANING LIFE
三宮・ジョイント
〒650神戸市生田区三宮町1丁目32号

トア・ロードの昼と夜を
パウリスタ
の優雅なサロンで



TEA & GRILL
paulista
トア・ロード パウリスタ

神戸市生田区三宮町2丁目34(パウリスタビルB1)
TEL 078・391・0061

営業時間 / 午前10時～午後8時30分
第1・第3水曜日定休

スペシャル

★ニューカレドニア8日間

¥199,000

11月7日・14日・21日・28日出発

年 末

★大阪/パリ往復航空券

¥198,000

12月26日出発 1月9日帰国



ENGLAND

安全の留学——英国留学のお手配します。

- 実績 7 年
 - ロンドンに日本人スタッフ在駐
 - 実力、希望に合わせた学校を選択します。3か月～1年間
- その他、何でもご相談ください。

運輸大臣登録一般旅行業 第492号 TOP NOTCH INC

TOPNOTCH 株式会社 トッコナッチ



〒651 神戸市葺合区琴緒町5-7

☎ (078) 242-2695(代)

本社 東京
海外支店 ロンドン / リージントストリート
パリ / シャンゼリーゼ通り

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

<神戸のファッション都市化をめざす>

K. F. S. news 44

事務局／神戸市生田区東町113-1

月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

●秋のチャリティファッション公開講座／KFS主催

わたしは流行の先を行くのヨ

大屋政子「人生を語る」



恒例の記念写真。「また神戸に呼んで下さいね」と大屋政子さん

今年はちょっと趣向を変えた講師でと、今マスコミで人気の大屋政子さん（帝人社長夫人）を迎えての秋の公開講座「日本に本格的なオペラハウスを建てる」とが一番の望みとおっしゃいます。（できればポートアイランドに、と思うのは神戸っ子たちの望み）

世界中飛びまわっている大屋さんのファンション論。「テーブルクロスに穴をあけてドレスにしたの。それ着てテレビに出たら、それから一週間後のパーティ

で或る女優さんが真似てたのヨ。私が変わった格好してたら必ずそれ“流行”するの」即ちファッションとはアイデア也。

「私はおとーちゃんのために働いているの。おとーちゃんが死んだら仕事やめて引退するつもりよ」即ち良妻貞女論。

「先妻の子供を結婚させる時には、ずい分お金を使ったけど、私の二人の娘は贅沢させませんでした。でも今結婚して一緒に住んでいるのですが、本当にいい娘たちです」即ち子育て論。

「不動産の仕事は生活のためにしています。でもテレビだと講演会は全部オペラハウスの資金にまわします」大屋さんは女性に人気があるのですが、きっと彼女が快妻なのに可愛い女だからであろうと思いました



田中さんより花束

華やかにタキシードパーティ



全員そろってフィナーレ。皆さんおすまで。

10月6日（土）北野クラブで、スープルソワレ主催のタキシードパーティ第1回が開かれました。フォーマルウェアでのパーティは（パーティ好きの神戸ですら）あんまりないので、敢えてやってみようという若手紳士服業者の企て。

さて当日、早々ご同伴でドレスアップして到着された顔、顔……華やいで楽しそうな様子に主催者の我々まで嬉しくなってしまう。ディナーのあと湯井一葉さんのシャンソンに合わせて、皆手拍子と合唱。司会の村上和子さんのリードでムード最高潮の時にタキシードファッションショーが始まります。これにはお客様の中から飛び入りも続々。湯井さんも飛び入り参加。計9人のタキシードを着た紳士（田中謙司氏とか私ども）に、ロングドレスの美女が揃ったところで、ショーはフィナーレ。

これから毎年続けようと思っておりますので、皆さんご声援お願いいたします。 中島正義

〒 POST & POST

谷川文子さん

9月8日国鉄本山駅前ダイソービルM2階に「あたりえふみこ」岡本店をオープン。開店記念に第3回創作発表会を開かれました。

東灘区岡本1丁目5-5 電453-3936

小林絹代さん（移転）

〒654 須磨区西落合6丁目150-306

'79 Xmas Party のお知らせ

12月18日（火）6:00PM-9:00PM

サンツノーレ北野店（北野町にあるビル6F）

電221-3886

チケット／5,000円

今年もまたファッショナブルなクリスマスパーティを計画しました。楽しい夜を過ごしましょう。



<23>

今月だけは 京劇のこと

淀川 長治
△映画評論家



「三岔口」より



「拾玉錆」より

京劇が来るというのでフランス映画社の川喜多和子さんと一ヶ月前にABC三プロの切符をいつぱんに買つてしまつた。私はキヨーゲキキヨー。これはウグイスの声に非ず。京劇狂。それで今号だけは活動写真の話を止め京劇のコーフンに移る。

これでも私におきましては京劇すでに今回で四度目といふいささかのつう。大正八年は私十才だったので両親

はさすがこらワカラント家に残した。ところで大正十三年は連れていってくれた。聚楽館だつた。十五才の私はジヤリのくせに梅蘭芳にオカボレした。あんなきれいな女人の人と見とれきつた。もちろん女形とは知りながらあこがれた。その衣裳の美しさに圧倒された。

これが昭和三十一年となるともはやこの（芸術）に酔つた。やっぱり懐しや梅蘭芳だ。この夜は歌舞伎座（もうとつくに私は東京に移つてゐる）で沢村貞子さんと見た。今回のBプロ上演の「拾玉錆」もその夜見たのだが私はそのパントマイムの美しさに自分のからだが消えてなくなつて舞台のその俳優のからだの中に乗り移つてしまつた氣がしたのである。沢村さんはこの夜の『ガントウザン』でもはや我慢できぬか中腰に椅子から立ちあがつてしまつた。というわけで昭和三十八年来演のときも見て、それで私は（友の会）という若人の集り……これは今もやつていて数えてすでに三十年をこえるという次第なのだが、この若人一五〇人あまりの集りで私はとくとくといつも京劇を語り、ついには「拾玉錆」を一席手ぶり足ぶりパントマイムそのままに演つてみせるのである。これは今に始まつたことでなく二年三年四年まえから入れかわり立ちかわり来るその若人に見せた。というわけで今回来演にあたり私の熱が若人にしみたか、なんとABCそれぞれに五〇人がつめかけて、国立劇場のロビイでその幕あいにチラチラと逢つた若人、私を見るなり「拾玉錆」はセンセビつたりセンセのとおりでした！「恥づかしいロビイには人がいっぱいはるやないか。まあこれだけ熱を出すとえらいもので何かが何とかな

るもんなのだ。九月八日のひるのCプロを見た幕合いで私は川喜多和子さんから杉浦康平氏を紹介された。今回のプログラム・パンフレットのデザインをされている。

その杉浦氏からこんどの一通の通訳をおひき受けの黎波さんを紹介され、それのおかたと話しているうちにこのひる番組が終わつたとき、樂屋へいらっしゃいこのロビイのここで待つてますから御連れしましよう。黎波さんがそう思う一念つうじるもので、えらいことになつてしまつた。まさか京劇の樂屋。「水漫金山」終るやロビイへ駆けつけた。かくて国立劇場の樂屋へ。靴をぬきスリッパをすべらし胸ドキつかせ。こ走りに走つて俳優さんたちに、

あの「孫悟空」の衣裳に、その馳け出しているさいちゅう廊下の右手から「淀川はアーン」……あれ誰？ それがあなたの文樂の玉男はん。人形使いでは天下一品のあのひとと。『あんた、きょうは何でんのん？』『まあタマオはん、ここで逢おうとは、ああうれし』たちまち文樂スタイルになりかけた。実はこのおひととは数年前新幹線の席で隣り合した。『わて映画好きでんねん』『私は文樂好きでんねん』互いに『ほんまだっか』と手に手をとつて二人でしゃべつたわしゃべつたわ。

とそのようなわけで『一度、樂屋へよりなはれ』と仰言つて別れたのだが私は上演中の樂屋はしんけん勝負の念の入れどころ。そのような所へのこのこゆくのはこわい。というわけだったのに京劇のこの日はひるの部とよるの部の間。これならとあまえての樂屋訪問。ところで玉男氏がとたんに声かけられたは、この今日が文樂の国立劇場の初日であったのである。文樂見ないで京劇とはちトつらい。それでちよいと玉男はんの樂屋ののれんくぐつたら加藤キヨマサの人物がテーンとあたかも神サマそのままに樂屋にそなえてあつて、さすが玉男はん……感ゲキ一杯。とそうしているうちに、こちらは中国や、あわてていろいろな立派なおかたにお目にかかつたが誰方がどなたかさっぱりわからへん。まだクマドリ、そのおめんそのままのお顔「秋江」の老船頭さんをぢかに見ると意外に若い、私がそこで舞台をまねてからだを上下に深く動かすと笑いころげてター・シャターシャとか仰言つたが何にもこつちはわからへん。けれども冗談ぬいてこの京劇の樂屋、アカデミックだった。大学の庭だ。みんな上等な連中。衣裳の説明もはや紙数なし。ただひとつ。朝から四〇回五〇回と飛躍の練習つんだその一人が、そつと、たつた一人、カーテン下りた無人の舞台で、またもサッサットン、サッサットンと練習のそのフットライトの当らぬ暗い舞台のその風景に私はじーと見とれてしまつたのであつた。



「水漫金山」のフィナーレより花束を受ける出演者たち<神戸文化ホールにて>

女体自慰

<87> 一人妻

細川

董ただす △文とえ／哲学者△

あなたは チェンライ 御存知ですか？ チェンマイなら玉本事件でよく知ってるけど とおっしゃるのですか？

ごもっともごもっとも。知らざあいって聞かせやしよ。 チェンライは、 チェンマイからまだ大分奥地へ入った所の地名なのです。

どんな所かって？

まあまあ、 そうあわてないであわてないで。

タイとビルマとの国境近くにある世界でも有数の宝石の出る街なんですぞ。 ルビー や サファイア が集まつて来るのです。

蔣總統の一族一軍が、 この町をとりしきつて、 ビルマゲリラと対峙し、 そのすきをぬつてふところにルビーを隠ませた密輸入者がビルマから国境を命がけで越えて来るというのです。

木蔭には、 どこに銃口が侵入者をねらつているかわからぬ。 ジープで密林を走つて町へ入つて行く時、 うかうかキヨロキヨロしようものなら一発でズドーンとやられる危険性あります。 その代り虎穴に入らずんば虎兎を得ず、 の例えあります。

飛び切り安く宝石が手に入るというのです。 五万円で買って来たビンクの玉が神戸へ持ち帰つて宝石店で調べてもらえば三百万円もする本物のルビーだったとか。 世界の宝石業者が命がけで、 チェンライへもぐり込もうというのもうなづける。 そればかりではない。

若い何人かの妻を最低一ヶ月はべらせて始めて宝石の取引に応じてもらえる風習とか。 蔣總統の血を引く美貌の結婚希望の女達が皆様のお越しをお待ちしているとか。

こう聞かされてはじつとしてはいられない。 この道十五年の彼は、 ヨーロッパ百二十回、 アメリカ三十回の旅行業者の血がさわぐ。 欲と色との道連れ結構。

早速、 会社へ休暇届けをいきぎよく出してタイへ飛び、 チェンマイからジープでチェンライへの旅に出た。 早くもジープは、 密林にさしかかっていた。 彼を待ち受けているチェンライの若い女達のことを思うと彼はフト日本で始めて経験したダブルサーヴィスを想い出していた。

「私達二人いっしょでどう？」

「え？ いっしょに？」

「ええ。 ダブルサーヴィスよ」

といわれて、 やつと意味が通じてOKすると、 一人はフェラチオ、 一人はオッパイを吸い始めた。 一人は丸顔で色黒でデッ尻、 一人は長顔で色白で胴長、 二人ともやせていた。 彼の顔の上に長顔が後向きにまたがつて、 彼の下半身にまたがつて丸顔と向い合つて二人は抱きあい彼は、 長顔の花弁の中に顔を埋めて悶えたものだった。

いわば、 それは営業上のサーヴィスとして全く受身に、 二人の女のダブルサーヴィスを受けた訳である。

これは、神戸の某トルコでの話であつたが……。

そうじやなくて、これが二人の愛する妻達から心をこめてやつてもらえたなら、どんなに素晴らしいだろう。

しかし、それは夢ではない。もう間近に近づいているエンライへ着けば、それは現実になるかもしれない。



ジープを運転している案内人は、彼の気持を察してかニヤツと助手席の彼を見て笑つた。
さて、いよいよエンライに着いて部落の長に案内されてみて話に聞いていたことはうそではなかつたのだ。
「ここでは、あなたの気にいった妻を最低二人は選んで下さい。そして、少くとも一ヶ月は暮していただかなければなりません」

案内人の話では、彼らの風習に従つて生活してこそ信用され、商売の相手になつてもらえるので、もしさうしないと生きては帰れないというのである。

夢に見た二人妻は、現実には命がけという事態に相成つたのだ。少女のよううにういういしく顔立ちのいい色の浅黒い丸顔と長顔の二人の妻を彼は選んだ。ただ、仲のよさそうな特にあれの好きそうな二人を選ぶようには心がけた。

ほんとうに、可愛い二人だった。彼は、その夜から、わらぶき小屋のむしろのようなベッドに、二人妻にはさまれて実際に寝ることになったのである。

命がけである。ただひとつ、彼女等の体臭がフランス香水の世界とは程遠いのが彼のやる気をくじくのであつた。彼は少女趣味だし、色の黒いのも結構なのだが、どうも非文明のにおいというものは急には、どうにもなるものでない。

むし暑い夜の中、身じろぎもせず二人の少女の間で寝るということの苦しさを味わうことにならうとは。

というのも彼は疲れ果てていて、二人を同時に満足させ得る自信が湧いて来ないのである。二人の若妻もただじつと寝てているだけで、特に彼にむこうから積極的に何もしかけて来ないというのも不気味である。誰かが、物かけからのぞいているようにも思える。

一人と、してしまえば、そしてもし万一もう一人の要求に応えられなければ……。ズドン！

彼は、待ち受けていた密林の二匹の毒グモの巣に引き込まれたカマキリのような気がしてならなかつた。